

平成 25 年度第 4 回（121 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 25 年 10 月 22 日（火）午後 2 時から

場 所：中清戸地域市民センター第 2 会議室

出席者：野島和季子、鈴木紀子、河原守、真田美那子、菊池義昭、小川弥栄子、石津和幸、菊谷隆、林光夫、吉岡袈裟喜、山本強、鬼澤義信、柴田正子、星野芙美子、竹森菜摘、法性由紀枝、車崎祥子

事務局（市民協働係長、企画課主事）

欠席者：原田輝雄、長谷部勝也、齊藤しのぶ

<配布資料>

- 1 平成 25 年度第 4 回（第 121 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 平成 25 年度第 3 回（第 120 回）清瀬市まちづくり委員会議事要旨
- 3 提案「市に観光課を設置&仮称・観光ガイドボランティアの会の設立」資料

**1 開会**

**2 前回の確認**

前回の議事要旨の確認をしてもらいたい。

<委員了承>

**3 提案審議**

委員長：前回委員の意見を反映して提案「車椅子が行き交う街」の回答を作ってきたので確認してもらいたい。

<委員長読み上げ後、委員承認>

委員長：次は提案「市民が掘り起こし記録する清瀬の現代史制作」の回答を作ってきたので確認してもらいたい。

<委員長読み上げ後、委員承認>

委員長：では次に、提案「市に観光課を設置&仮称・観光ガイドボランティア

の会の設立」について、事務局に依頼した過去の当提案に似た審議資料を見ていただきたい。

委員：産業振興課の職員数は何名いるのか。

事務局：嘱託職員もいるが、正確な人数は把握していない。

委員：清瀬には観光資源が無いので、観光課を作ってもどうなのか。

委員：良く探してみれば観光はある。だがその観光資源を担当する主管課は別々である。

委員：観光情報のパンフレットが無い。博物館で清瀬に詳しい人がいるので、市民の人々の手で作ってみても良いと思う。

委員：近年夏に柳瀬川でBBQを行っている人が多い。有名な観光箇所であるが管理が難しい。目玉なので考えていきたい。

委員：シルバーの人を常駐するのはどうか。

委員：BBQに来る人のマナーが悪く、注意するのも怖いとの話を聞いたことがある。

委員：観光では無く、レジャー地域として注目させるのはどうか。

委員：BBQのゴミ問題もあるが、今は観光課について議論していきたい。清瀬では観光資源は少ないので、散策ルートを有名にする方向も検討したい。

委員長：前にも同じような提案をもらっており、当時は今ある観光資源を生かして、新たな観光課を設置しなくても良いのではないかと回答している。当時の回答より3年経過し、市の情勢等は変わってきているので、今いる委員がこの提案について考えを出してもらい回答したい。

委員：時期尚早である。産業振興課は農業委員会の事務局である。色々な部署が縦割りなので、産業振興課に係として観光係を作れば良いのではないか。観光資源のロードマップを作製すれば良いと思う。

委員：国体の時に作った清瀬るるぶがとても良かった。これがあれば観光をPR出来るのではないか。

委員：ひまわりフェスティバルでは、西は兵庫県、東は仙台市からひまわりを見に来たが、周辺で昼食やトイレを足せる場所がわからなかったとの話があった。どこかで係を一本化していくべきである。

委員：清瀬の事を知らない外から来る人の事を考えていかなければならない。

委員：観光課の設立までいかなくても、係の設置で良いと思う。

委員：以前同じような提案に対する回答では既存の観光資源を生かしていくとの回答であった。考えとしては係を設置しても良いと思う。

委員：かたくりまつりも観光資源を生かしきれていないと思う。イベントを一本化していくのはとても重要である。他市から来た人にPRしていきたい。

- 委員：せっかく商工会でスタンプラリーをやっても周知されていない。
- 委員長：現段階で観光課は必要か意見を求める。
- 委員：現状でのままでは良くないと思う。
- 委員長：産業と観光を一緒にするのは違うと思う。清瀬市として観光課は必要か否かの考えが欲しい。事務局への依頼として、清瀬市の平成25年度の組織図を準備してもらいたい。また現在の産業振興課の人数と業務内容を教えてもらいたい。産業振興課に清瀬市の認識している観光地を教えてもらいたい。
- 委員：小さなイベントはあるが、まとめて担当している組織は無い。
- 委員：清瀬には芸術家もいる。活用すべきである。
- 委員：清瀬は小さいが、寺や史跡等が少ないとは思えない。
- 委員長：清瀬の町の魅力がたくさんあれば観光課について審議が進むので、次回の会議では各自清瀬の見どころを報告してもらいたい。
- 委員：市に縦割りの組織を横のつながりを持てるような組織にするような要望でも良いと思う。
- 委員：やはり刊行物を一本化することにより、経費削減に繋がると思う。
- 委員：かたくりやひまわりまつりは市外から人を呼べる力がある。組織化しても事業的可能性があるかどうかと検討すべきである。
- 委員：自然に関するイベントには限界がある。結核研究所など知名度UPとして可能性があるの、清瀬の特色として活用していきたい。
- 委員長：今の委員の考えと方向性を次回詰めていきたい。次の提案「猛暑避難場所の運営の見直しを！！」を読み上げる。

#### 【提案内容】

1. 老人いこいの家のオープン日について。  
なぜ土曜日・日曜日は除かれているのでしょうか？  
(本年は、土・日とも35度を上回りました。高齢者の中には、独居・老夫婦世帯もかなりあるのでは？)
2. 公共施設での受け入れ体制について
  - 受け入れ対応可能な公共施設の時間と曜日を明確にしてほしい。  
(駅前図書館は除外？)
  - 受け入れ側施設の対応は、クーラー等の無いロビー提供だけでは、利用する気にならないのでは？  
(クーラーが可能な一室の提供は無理？)
  - 受け入れ側の職員の意識の内に、猛暑避難場所としての対応意識無し。  
(自分自身が施設でアルバイトしてますが、それに対する指導はありません。)
3. 猛暑避難場所として、形ばかりの行政から、真に利用しやすい「あたたかな清瀬」を目指して欲しいものです。

委員長：併せて次の提案「ハンドメイドで街の活性化」を読み上げる。

**【提案内容】**

近年ブームとなっているハンドメイドで街の活性化はいかがですか？  
子育て世代の私のまわりに、沢山ハンドメイド好きなママ、清瀬市民がいます。  
ぜひ、作品が集まる、販売できる舞台づくりをしていただければと思います。

委員長：猛暑避難所の提案については今後検討していきたい。ハンドメイドの活性化については、現在市内に市民活動センターで市民活動ニュースを発行しており、NPO法人・ボランティア・市民活動団体の紹介を行っている。それを活用する回答案を次回作ってくる。

次回 11 月 26 日、中清戸地域市民センター会議室 1 にて 14 時より行う。